

(別記)

福祉サービス第三者評価結果公表事項（児童養護施設）

①第三者評価機関名

社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会

②施設名等

名称：松山信望愛の家	種別：児童養護施設
施設長氏名：沖本 直子	定員： 75 名
所在地：松山市久万の台 251-1	TEL 089-924-9215

③実施調査日

平成26年1月24日（金）～25日（土）

④総評

◇特に評価が高い点

昭和22年、戦災孤児救済のための施設として設立して以降、一貫して児童の養育支援に携わり、現在は地域小規模児童養護施設を開設するなど、早くから時代のニーズに合わせた事業を行っている。職員は施設の運営理念をよく理解し養育・支援体制の整備や職員の資質向上に施設全体で取り組み、人材不足になりがちなか中で働きやすい職場環境の整備が行われている。

◇改善が求められる点

養育・支援の向上のために外部からのスーパービジョン（指導・助言）の体制づくりや幅広い視点での研修を行い、さらなる職員の資質向上を図るとともに、新たな小規模施設開設に向けた人材確保への具体的計画を検討していくことが望まれる。

また、第三者評価を通して各職員が問題意識を持ち、課題に向けた解決策を提案していく仕組みづくりにさらに取り組んでいくことを期待したい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

社会福祉法人コイノニア協会並びに松山信望愛の家の理念の下、職員が一丸となって歩んで参りました。今回の第三者評価結果を謙虚に受けとめて、福祉の高みを目指して、更に努力を続けて参りたいと思います。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a・b・c
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a・b・c
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a・b・c
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a・b・c
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもとの基本的な信頼関係の構築を意識し対応できている。 施設内で自由に閲覧できる図書は十分とは言えず、読書への意識を高めるとともに人格形成の観点からも図書室を有効に活用するための工夫が必要である。また、経験豊富なシニア層のボランティアや地域資源を活用するなど、体験学習を充実させ学びや遊びの場が広がるための配慮、工夫がなされることが望まれる。</p>	
(2) 食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a・b・c
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a・b・c
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a・b・c
(3) 衣生活	第三者評価結果
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a・b・c
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a・b・c
(4) 住生活	第三者評価結果
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a・b・c
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

食事時間の中で職員とともに楽しく食事をしている様子がうかがえる。小規模施設では食事づくりも行っており、外食をする機会にマナーを学ぶなど、より家庭的な雰囲気でき食事できるように努めている。今後は買い物などを行う際に食について学ぶ機会を設けるなどの取組みに期待したい。

高学年になるほど自主的に片づけることを求められるが、上手に片付けができない子どももいるため整理整頓できている状態を保つための工夫が必要である。

また相部屋であっても部屋の中で自由に絵や写真を貼ることができるスペースをつくり、個人の空間を確保するための工夫をするとともに、子どもの作品を飾るなど温かみのある雰囲気づくりを行うよう望みたい。

(5) 健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	Ⓐ・b・c
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	Ⓐ・b・c
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・Ⓑ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
健康管理や事故防止に関して年齢に応じた指導や支援の徹底を図るためのマニュアルは整備されている。	
性教育への指導は発達段階に応じてカリキュラムは用意されているが、有害情報の提供や命の大切さを学ぶ教育、外部機関の活用など、状況に応じて適切な方法で子ども達が正しい知識を得ることができるよう今後の取組みに期待したい。	

(7) 自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	Ⓐ・b・c
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a・Ⓑ・c
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a・Ⓑ・c
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	Ⓐ・b・c
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	Ⓐ・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

食堂の箸や茶碗など日用品は個人の好みを尊重し、個人の物として用意されている。

個別の成長記録を必要に応じて職員とともに振り返り、成長の過程をたどることで自己を大切にす気持ちや育まれることを期待したい。また、子ども自身が日常生活のあり方を自分たちの問題として提起していくことは難しいことであるが、意見箱に寄せられた意見を可能な限り全体の問題としてとらえ、解決方法を自分たちで考え、話し合える環境づくりを行うことを望みたい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a・ b ・c
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a ・b・c
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a・ b ・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

進路支援に関しては、自己決定ができるように必要な情報提供や話し合いをする機会を多く取っており、アルバイトの体験など就労への支援が行われている。

全ての子どもが個別の空間を確保して学習することは難しいが、落ち着いて学習できる環境づくりに向けてさらに努力していくことが望まれる。

様々な職種の体験が実現できるよう日頃から職員が意識し、多様な働き方があることを伝えるなどさらに充実させていくことが望まれる。厳しさだけでなく、働くことの喜び、やりがいを感じられるような支援が行われることを期待したい。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a・ b ・c
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a ・b・c
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a ・b・c

(11) 心理的ケア

① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。

a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

子どもの問題行動が起きた場合、学校と連絡を密に取りながら状況を把握し解決に向けて取り組んでいる。問題行動を起こした背景、心理的分析を行い、その後の経過を文書化し全職員の意識の統一を図り、よりよいコミュニケーションを取りながら自立できるよう支援していくことが望まれる。

子どもの問題行動や暴力、いじめを完全になくすことは困難であるが、問題が生じた際になぜそのような行動に至ったのかその背景や心理面の変化を十分聞き取り、記録・分析をしながら子ども同士で話し合える機会を継続的に設け、職員間でさらに意識を高めていくことを期待したい。

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a・b・c
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a・b・c
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家庭復帰については、家庭支援専門相談員が中心となりきめ細かい相談が行われている。アフターケアについては人員不足によりまだ十分できていないところもあり、定期的な聞き取り調査を行い虐待の防止に努め、地域の支援機関と連携を取りながら家族関係がスムーズに構築できるようにサポートしていくことを期待したい。</p> <p>児童養護施設を退所した子どものアフターケアについては行事案内だけではなく、定期的な退所者が集まり悩みや問題を話し合う機会を設け、早期に対応できるよう体制づくりを行っていくことが望まれる。また退所した子どもの状況を記録し、分析しながら現在の支援の在り方を考察していくなど今後の取組みに期待したい。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a・b・c
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a・b・c
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>定期通信、電話連絡等で子どもの状況を必要に応じて行うなど家族との関係調整や親子関係の再構築への支援は柔軟に行われている。また、施設建て替えの際、親子訓練室（宿泊施設）等を設ける予定となっている。</p> <p>親子関係再構築に向けて関係機関と連携を取り慎重に対応している。今後、親子訓練室の設置に伴い、親子が一緒に暮らすための課題解決に向けた取組みを具体的に計画されることを期待したい。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a・b・c
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a・b・c
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a・b・c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a・b・c
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a・b・c
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもの状況や課題に応じて具体的な自立支援計画の策定ができており、定期的に見直しが行われている。子どもや保護者に関する記録は適切に管理されており、職員間での情報共有ができています。</p> <p>平成26年度からは自立支援計画票の見直しを検討しており、経験年数に関わらず誰もがわかりやすく記録に時間がかからない工夫がされるよう期待したい。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a・b・c
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a・b・c
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a・b・c
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a・b・c
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a・ - ・ c
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a・b・c
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a・ b・ c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

子どもとの適切な関わりに関する改善計画を策定し、被措置児童等虐待防止マニュアルやケア内容自己チェック表を活用し、子どもを尊重しながら最善の利益が確保されるよう、積極的に取り組んでいる。

子どもの意向を全て受け入れることは難しいが、子どもの意見を取り入れながら職員や周りの子ども達と共に考え、生活改善に向けての具体的な取り組みや意見が自発的に出るよう、さらに配慮、工夫することを期待したい。

(3) 入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a・b・c
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a・b・c
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a・b・c
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a・b・c
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a・b・c
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a・b・c
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a・b・c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a・b・c
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a・b・c
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

「生活のしおり」に記述している子どもの権利については、子どもが理解するにはさらに工夫が必要である。虐待経験があり自己肯定感の低い子どもに対し、権利を正しく理解した上で権利と責任の関係なども合わせて伝えることができるよう、今後の取組みに期待したい。

子どもに対する不適切な関わりは、自己チェック表を活用し早期発見できる工夫がされている。

他者への心づかいを育てるために様々な経験を積んだ人との交流をさらに図り、現在の自分の立場を考えられるよう支援していくことが望まれる。

5 事故防止と安全対策

	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	Ⓐ・b・c
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a・Ⓑ・c
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a・Ⓑ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事故防止と安全対策については、あらゆる想定をしながら毎月避難訓練や安全点検を行なっている。また、ヒヤリハット報告を活用し、施設内での事故防止のための取組みが図られている。</p> <p>警察、自治会との日常的な連携をさらに密にし、不審者等不測の事態に対応できるよう対策を考慮し、大規模災害時に備え施設が持っている機能を地域へ開放する場合も考慮した対応を検討していくことが望まれる。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

	第三者評価結果
(1) 関係機関等の連携	
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	Ⓐ・b・c
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	Ⓐ・b・c
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	Ⓐ・b・c
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a・Ⓑ・c
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a・Ⓑ・c
④ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	Ⓐ・b・c
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a・Ⓑ・c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a・Ⓑ・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

各関係機関と連絡を密にし、困難事例や対応の難しい児童については適切に情報交換、相談等が行われている。今後は、各種NPO法人やボランティア団体等、より多くの関係機関の情報収集を行うことを期待したい。

学校の友人が気軽に施設に遊びに来られる環境づくりを行うなど、施設や子どもへの理解を深めるため働きかけていくことが望まれる。

被虐待児の増加やその対応など現在の社会的課題を解決していくために、児童養護施設が有する情報や経験を地域に提供していくことが望まれる。

7 職員の資質向上

	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	Ⓐ・b・c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a・Ⓑ・c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	Ⓐ・b・c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	Ⓐ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>小規模化に向け職員像を明確にし、職員の資質向上のための取組を積極的に行っている。</p> <p>職員一人ひとりの目標、研修の計画、専門資格等の取得へ向けた取組、県外への研修参加などさらに充実させていくことが望まれる。</p> <p>今後は各種専門家等への相談など外部のスーパービジョンへの取組も検討していくことが望まれる。</p>	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	Ⓐ・b・c
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	Ⓐ・b・c
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	Ⓐ・b・c

(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a・ ⓑ ・c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a・ ⓑ ・c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	ⓐ ・b・c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	ⓐ ・b・c
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・ ⓑ ・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>小規模化に向けた中・長期計画、事業計画の策定は行われ、年度ごとに事業計画が策定されているが、施設の整備等に合わせた具体的な子どもの養育方針についても明記することが望まれる。</p> <p>子どもに対しては事業計画を含め、施設の方向性や運営方針を具体的に話をする機会を設け、子どもたち自身が自分の生活している環境に関心を持てるよう工夫していくことが望まれる。</p> <p>また、人材確保の具体的な方法や里親支援専門相談員等の専門職員の配置など、さらに実現可能な計画策定を期待したい。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	ⓐ ・b・c
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	ⓐ ・b・c
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	ⓐ ・b・c
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	ⓐ ・b・c
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a・ ⓑ ・c
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	ⓐ ・b・c
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a・b・ ⓒ

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

法人の理念に基づき施設内でその役割と責任を果たし、職員の資質向上を重点にリーダーシップを発揮し積極的に施設運営に取り組んでいる。今後は、児童養護施設の将来の展望を予測し、施設が有する専門的知識や情報を提供するなど地域との連携を密にしていくよう期待したい。

地域での福祉に対する需要の動向、潜在的な保護を要する子どもに関するデータなど多方面にわたり情報収集し、長期的視野に立って施設運営を進めていくことが望まれる。

法人運営の透明性の確保、経営状況の改善等実現させていくため、今後、外部監査の実施が望まれる。

(5) 人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a・b・c
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a・b・c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a・b・c
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a・b・c
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>各職種の専門性や役割をよく理解し、連携して養育・支援に取り組んでいる。小規模化に向けての人材確保、里親支援専門相談員等の専門職員の採用について、さらに具体的な計画を策定し人材確保に努めることが望まれる。</p> <p>福利厚生など仕事と生活の両立を図るための余暇活動への支援、時間外労働削減、外部の相談機関を活用したメンタルケアの実施など、さらなる取組が行われるよう期待したい。</p> <p>今後、社会福祉士等の実習生受け入れを考慮し、資格に配慮した実習プログラムを用意していくことが望まれる。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a・b・c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a・b・c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a・b・c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

養育・支援についてのマニュアル等が整備され、適宜見直しが行われている。

第三者評価の意義、目的を職員は理解し、役割分担等行いながら自己評価がされている。

今後は、職員一人ひとりが問題意識を持ち、第三者評価の結果を分析し、どのような流れで改善、実施していくか具体的な方策をさらに検討していくことを期待したい。